

本読むと 未来の自分 見えてくる

おうち時間を読書で過ごそう!



12月14日(月)より冬休み特別貸し出しをしています → 一人5冊まで・返却は3学期
また、12月25日(金)終業式終了後は、貸出冊数無制限となります。

冬休み、こんな本とじっくり向き合ってみては？

◆『トリガー』◆ とうみく・著

音羽と亜沙見、二人の少女が生きる意味について考える

ある日、音羽は親友の亜沙見が家出したと聞かされる。音羽は亜沙見の最近の行動から、どこかで命を絶つのではないかと不安な気持ちになる。しかし二日後、音羽が帰宅すると亜沙見がいた。亜沙見には思いもよらない秘密があって…。「イッショニシンデクレル？」そう問われた音羽は亜沙見の秘密に付き合いながら、二人で生きる意味を探しに行く。



◆『絵本 星の王子さま』 サン＝テグジュペリ・著

池澤夏樹・翻訳

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」

上記の王子さまの名言はよく知られている。大人にも子どもにも一度は読んで欲しい名作。この絵本は原作の不思議な余韻を残したまま、とてもわかりやすく書かれているよ。やさしいイラストと、不思議な世界観にふれてみて。



◆『小説 映画 聲の形(上・下)』

誰もが共感できる。でも心のどこかにトゲが刺さる

小6の少年、石田将也のクラスに転校してきたのは、耳が聞こえない少女・西宮硝子。将也の「西宮いじり」が問題にされると、仲間たちは将也から離れ、しばらくして硝子は転校していった。それから5年、ひそかな決意を胸に、将也は硝子をさがし再会。硝子のために幸せだったはずの時間を取り戻そうとする。人間の本性がリアルに描かれていて胸が締め付けられる作品。



◆『かわいい見聞録』◆ 益田みり・著

ソフトクリームの可愛さは先端の「ちょろり」

身の回りの見慣れているものでも一度立ち止まってじっくりながめると可愛くてキュンとなるものがたくさんある。イラストや4コマ漫画もいっぱい、ながめているだけで幸せ気分になれる本。

かの清少納言も、小さくて愛らしいものを「うつくしきもの(かわいいもの)」と書き残しているし、日本人の「カワイイ文化」は平安時代から脈々と続いているのかも!?



◆『ぼくたちのリアル』◆ 戸森しるこ・著

学年イチの人気者、リアル。そして平凡なボクだったが…

スポーツ万能、頭よし、顔よし、性格よし、女子にもてるリアル。そんな幼なじみに昔からコンプレックスを感じていたワタル。そして転校生のサジ。ぼくたちは少しずつ違う。だから支えあえる。

三人の少年の忘れられない夏の友情物語。たくさんの人に読んで欲しい名作!



◆『感染爆発 見えざる敵=ウィルスに挑む』◆

デイビッド・ゲッツ・著

100年前のインフルエンザパンデミックは今と同じ!

これは100年前のインフルエンザとの戦いを描いた古い本だが、この夏、書き改めて緊急に再出版された。それには理由がある。100年前を学ぶことは、今を考えるために大変役立つからだ。この本の「インフルエンザ」という文字を「コロナ」に置きかえて読んでほしい。感染症との戦いには終わりがなく、これからも多くの人が医学や公衆衛生に関心を持つことが重要。 ※パンデミック=広範囲におよぶ流行病



◆ヨシタケシンスケの新感覚絵本

ヨシタケシンスケ・著

「りゆうがあります」
 「ふまんがあります」
 「このあとどうしちゃう」
 「りんごかもしれない」
 「みえるとかみえないとか」
 「ぼくのニセモノをつくるには」
 「あるかしら書店」「いいね！」



丸っこい独特なイラストは、ひとめ見ただけでヨシタケシンスケだとわかる。つらいこと悲しいことがいっぱいあっても、発想の仕方をちょっと変えてみれば、世の中、面白いこといっぱいあるよねというメッセージを受け止めてみて。



『ことわざ生活
あつち編とこっち編』

ヨシタケシンスケさんのイラストで
楽しくことわざが学べる

2019年の「日経エンタテインメント」を差し上げます！

欲しい人は図書室に来てください。

★期間: 12月21(月)~13(金)懇談の期間中

※希望が多い場合は抽選です。



和泉市の図書館からのお知らせ

ぶっくんつうちょう」で貯本しよう！

和泉市の図書館の「ぶっくんつうちょう」は、貯金通帳のように、借りた本のタイトルがどんどん記録されていきます。和泉市に住んでいる子どもなら無料で作れます。通帳がいっぱいになったら、市内の銀行や郵便局で素敵な特典をプレゼント。

さあ、冬休みは近くの図書館に出かけよう！



和泉市の図書館

Osaka Izumi City Public-Library

和泉市には5つの図書館がありますが、皆さんの家の近くにもあります。

- ◆TRC 和泉図書館（和泉府中駅前フューチャー和泉3階）
- ◆にじの図書館（人権文化センター内）

年末年始はお笑い番組ラッシュ お笑い芸人さんが書いたら、本がこんなにおもしろくなるとは！

◆『神様の裏の顔』◆ 藤崎翔・著

予想のななめ上をいくどんでん返し of 結末！

神様のような教師だった坪井誠造の通夜は悲しみにつつまれ、誰もが涙した…のだが、参加者たちが「神様」をしのぶ中、とんでもない疑惑が。実は坪井は凶悪な犯罪者だったのではないかと元お笑い芸人さんが才能を開花させた作品。



◆『京大芸人』◆ 菅博文・著

高学歴芸人ロザン。二人の出会いからデビューまで・受験勉強の話…所々、おもいきり吹きだす！

「高性能勉強ロボ」こと宇治原と菅ちゃんが、高校で出会ってコンビを組みデビューするまでの話。宇治原の計算され尽くした勉強計画に感服。「教科書に載ってるところは全部重要」！。そんな高性能勉強ロボをあやつるスマイル菅ちゃんが微笑ましい。とのかく、ものすごく読みやすく面白いですのでおススメ！



百人一首の本

◆『ちびまる子ちゃんの暗誦百人一首』 / 『小説 ちはやふる』(上の句・下の句・結び) / 『競技かるたで勝つ！百人一首教室』◆

ちはやふるは高校生の競技かるたの世界を描いた物語。競技かるたのルールやテクニックがマンガでわかる本や、百人一首を覚えるためにちびまる子ちゃんが一句ずつ解説している本まで図書室には百人一首の本がいろいろあるよ。冬休みに暗誦にチャレンジしてはいかが？



